米投資ファンド下で本格始動

EV電池遮炎材など商機

結晶質アルミナ繊維拡大

三菱ケミカルグループから分社独立したマフテックグループ（東京都千代田区、松﨑耕介社長）は、結晶質アルミナ繊維で新市場の開拓を進めている。同繊維は車の排ガスを浄化する触媒コンバーター把持材。マフテックが世界最大手だ。バッテリー電気自動車（BEV）シフトは逆境となるが、4月に就任した松﨑社長は「全くネガティブに捉えていない」と言い切る。

―米大手投資ファンド傘下となって約3年がたちました。

「もはや売上高4兆円クラスの大企業（三菱ケミカルグループ）の一部門ではない、という自覚が重要だ。顧客と販売代理店の声をよく聞き、いかに当社製品を使っていただくかにフォーカスする。

―BEVシフトは経営に大きく響くのでは。

「全くネガティブに捉えていない。160度Cの高耐熱性と弾力性が生きる新市場が多くあるからだ。例えば、EV電池の遮炎材が有望だ。電池が発火した際に乗っている人を炎から守る。既に1社に採用いただいた」

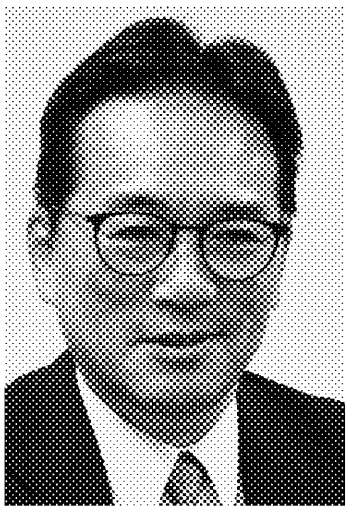
―他の有力市場は。

「再生可能エネルギーの安定供給に欠かせない定置用蓄電池向けだ。EV電池向けと同じような使い方ができる。数年以内の商品化を目指して研究中だ。1980年代の発売当初は、製鉄所の高炉向けなどが主力だった。今は老朽化した高炉の更新に伴う需要が多くある。また、半導体や太陽光発電設備の製造過程にも使われている。さらに車で言えば、以前からの用途である排ガスの触媒コンバーター把持材として、商用車や建設機械向けを開拓する。今まで強く取り組んでいなかった分野だ」

―米国、欧州に販売拠点を立ち上げました。拡販戦略を教えてください。

「小さいが自前の拠点を欧米に持ち、ようやく本格的な営業を始めたところだ。冒頭にも話したが、各国で販売代理店との連携を深めながら、顧客のニーズを聞き取り、開発につなげていく」

同様のやり方で新市場を探す。体制が変わり去った人もいたが、素晴らしいキャリアの人も多く入った。社内の諸制度、カルチャーを再構築しているところだ」



マフテックグループ社長 松﨑 耕介氏

記者の目

「成長余力」証明進む

車業界の変革や脱炭素の文脈で事業ポートフォリオの組み換えが進む。三菱ケミカルグループからの分社独立も例外でない。唯一の商材である結晶質アルミナ繊維「マフテック」が車の内燃機関周りに特化した「枯れる」技術ではなく、成長余力のある技術だと証明していく。種まきは着実に進んでいる。

（南東京支局長・六笠友和）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社